

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO.81 平成27年4月号

福岡アジア都市研究所は、
福岡市を中心に産学官が協力して
設立した研究機関です

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-10-1 福岡市役所北別館 6F
tel:092-733-5707 fax:092-733-5680 email: library@urc.or.jp

目次

◆URC資料室ニュース

- ①「明日の建築と都市展 1960-2000 回顧と展望」
共催及び関連資料展示報告・・・・・・・・・・1
- ②平成26年度年度 第4回ミニセミナー開催報告・・・・1
- ◆「九州中国研究会第21回学習会」で研究報告・・・・2
- ◆URCニュース
- ①平成26年度市民研究員 副市長報告及び修了式を実施・2

- ②シンポジウム「高齢者が活躍するアクティブ・エイジング社会を目指して」開催報告・・・・・・・・・・2
- ◆FDCニュース 「エイゴで宴！グローバル花見大会～Sakura Fes～」開催報告・・・・・・・・・・3
- ◆今月のおすすめ「最新 エリアマネジメント一街を運営する民間組織と活動財源」・・・・・・・・・・3
- ◆マスコミでみるURCの今・・・・・・・・・・4
- ◆「資料速報 平成27年3月受入分」・・・・・・・・・・別添

◆URC資料室ニュース

①「明日の建築と都市展 1960-2000 回顧と展望」を共催しました。

都市政策資料室では関連資料がご利用いただけます！



上海市復興東路再開発基本構想(URC1996 研究成果)の模型

3月14日土曜日から23日月曜日まで福岡市役所1階ロビーにおいて、3月24日火曜日からは場所を県立美術館に変えて、3月29日日曜日まで「明日と建築と都市展 1960-2000 回顧と展望」が開催され、当研究所が共催しました。

開催期間中、市役所ロビーでは1日に100～200名、県立美術館では1日に50～100名の方にご覧いただきました。

また共催に際し、当資料室が展示への情報提供で協力した資料をはじめ、光吉健次先生に関わる図書や雑誌を

資料室内にて展示しました。これらの資料は、閲覧、貸出可能ですので、是非ご利用ください。

なお、この展示は5月の連休過ぎに建築模型を中心に、鹿児島市の丸屋ガーデンでも開催される予定です。

筆者の一番身近にあった先生の作品→
：西消防署
(福岡県立美術館での展示の様子)

光吉初代URC理事長のプロフィールや福岡市の発展～URCの設立までをパネルで紹介



←都市政策資料室内での関連資料展示

*写真出典：URC撮影

②平成26年度 第4回 都市政策資料室ミニセミナーを開催しました！

3月30日月曜日、午後3時から4時半まで当研究所会議室において、平成26年度第4回のミニセミナーを開催しました。

講師のダルメンドラ・クマルさんは、インド・デリーのご出身で西南学院大学大学院在席中の昨年夏、当研究所の英語対応の研究スタッフとして着任され、この度、当研究所での勤務を終えられるのを機に、このほど修了された修士論文「インドの経済発展と日本企業」から、「インドの経済発展と日本」についてお話していただきました。講演の後半では、福岡市の

印象などもお話されました。年度末のあわただしい中、ご出席くださいました皆様、誠にありがとうございました。クマルさんは、ご卒業後、福岡県内の企業に就職されました。



*写真出典：URC撮影 (司書 山崎三枝)

◆「九州中国研究会 第21回学習会」で研究報告を行いました。 研究員 中村由美



3月28日土曜日、西日本新聞会館で開催された九州中国研究会第21回学習会において、「東アジア地域協力の動向」をテーマに研究報告を行いました。URCは同研究会の会員でもあることから、そのご縁で今回報告の機会をいただきました。

2000年代以降、東アジア地域ではEPA(経済連携協定)/FTA(自由貿易協定)の交渉・締結が活発化していますが、近年では、RCEP(東アジア地域包括的経済連携)、日中韓

FTA など、地域大の協力枠組みも進んでいます。経済連携協定は、加盟国間の物品関税の削減や撤廃、投資環境の整備、サービス貿易の自由化や、知的財産権、人の移動等の広範な分野の経済関係の強化を目指しており、協定締結後、アジア諸国間の貿易や投資の拡大を含む経済関係がさらに強まると考えられます。

こうした状況を踏まえ、これまでに実施した現地調査の結果や、政策の現場での業務の体験を織り交ぜながら、東アジア地域協力の動向について報告しました。

報告後は、日中韓 FTA の今後の見通しや、福岡とアジアの関係等について質問をいただくとともに、プライベートやビジネスで中国と深く関わってこられた参加者の方々から沢山のコメントをいただきました。さらに日本と中国の友好関係を期待する声も寄せられました。今後も大きく変化していくアジアに着目し、福岡市とアジアの結びつきも見据えながら、研究に取り組んでいきたいと考えています。

*写真出典：執筆者提供（研究発表の様子）

◆URCニュース

①平成26年度 市民研究員副市長報告及び修了式を実施しました。

3月23日月曜日、平成26年度市民研究員による副市長報告及び修了式を実施しました。

平成26年度は「スポーツを生かしたまちづくり」をテーマに、3名の市民研究員の皆様が、昨年7月から約8か月間、個別テーマについての調査研究活動を行い、様々な切り口からの研究・提言をまとめられました。

3月1日日曜日の最終成果発表会を経ての実施となった副市長報告は、ご都合により代表者1名の研究員による実施となりましたが、本年度の研究の要旨や提言を報告し、貞刈副市長からは、研究への慰労と今後一層のまちづくりへの参画・活躍を期待するコメントをいただきました。

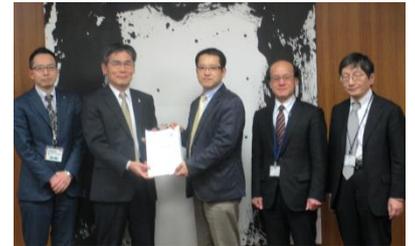
副市長報告に引き続き、URCで修了式を行い、平成26年度の市民研究員活動が全て終了しました。研究員

の皆様、大変お疲れさまでした。また、ご支援いただいた皆様、ありがとうございました。

本年度も5月上旬より市民研究員

を募集します。福岡市のまちづくりに関する新たな研究テーマを準備中ですので、どうぞ楽しみにお待ちください。募集開始の際は資料室だよりでもお知らせいたしますので、市民研究員の活動に興味・関心をお持ちの方は奮ってご応募ください。また、皆様のご家族、友人・知人の方などにも、ぜひ市民研究員（募集）のご案内をお願いいたします。

*写真出典：URC撮影（研究員 中村由美）



②シンポジウム「高齢者が活躍するアクティブ・エイジング社会を目指して」を開催しました。

福岡における高齢社会対応の取組を、アジアも視野に入れつつ考え・発信する「福岡アジア高齢社会デザイン協議会」では、3月21日土曜日に福岡国際会議場でシンポジウム「高齢者が活躍するアクティブ・エイジング社会を目指して」を開催しました。

プログラムは主催者の一つ、(特非)アジア・エイジング・ビジネスセンターの小川全夫理事長（当研究所特別研究員）による基調講演と、研究者・事業者による2つの事例報告および福岡市による施策報告という構成で、市民と事業者・研究者、行政が共に高齢社会を考える場となりました。

基調講演「アジアにおけるアクティブ・エイジング」では、若い人口で構成されていると思われがちなアジアの新興国が、日本以上に急速な高齢化が進むとの予測データを基に、日本の介護を世界の「KAIGO」としてアジア諸国との間で人材還流プログラムを構築していく必要性が示され、そのために「国際介護トレーニングセンター」を福岡に開設し、トレーニングの標準化やインフォーマル/フォーマル双方の能力開発の構築を進めつつ、相手国の状況に合った Win-Win-Win の能力開発による介護環境の整備を図るべき、との提言がなされました。

事例報告では、まず(株)ニッセイ基礎研究所の前田展弘主任研究員から、東大 IOG・柏市・UR 都市機構による超高齢社会対応モデル地域開発事業のうち、「生きがい就労事業」の紹介があり、自分の体力やライフスタイルに合った就労時間や場所・内容が選べることや、就労が地域課題解決や人との交流につながることなど、特に都市部リタイア層の働き方ニーズに合った就労スタイルを実現している例が報告されました。また、2年前に福岡でベンチャー創業した(株)ウェルモの鹿野佑介代表取締役から、介護サービスの受け手(利用者)や、利用者とサービスの橋渡し役であるケアマネジャーやSWといった使い手側が、必要な情報に楽にアクセスできるようにする事業紹介等がありました。

同日・同会場では福岡市主催の第2回アラカンフェスタも開催されており、好天にも恵まれ、開場前から多くの市民が集まり賑やかな雰囲気の中、聴講者の方々もシ



ンポジウムでイメージした「高齢者が活躍するアクティブ・エイジング社会」を実感しようと、フェスタ会場に向かいました。

*写真出典：AABC 提供
(研究スタッフ：白水美津代)

◆FDCニュース「エイゴで宴! グローバル花見大会~Sakura Fes~」を開催しました。

福岡地域戦略推進協議会(FDC)では、3月29日(日)に舞鶴公園において、「エイゴで宴! グローバル花見大会~Sakura Fes~」を開催しました。



このイベントは、FDC人材部会「I' ts エイゴ TIME~市民の英語能力発揮プロジェクト~」が企画したもので、日本を訪れる外国人は年々増え続け、それと共に、観光だけでなく生活やビジネスシーンでも英語を必要とする機会が多くなってきたことに対して、福岡のみなさんが英語を使い、英語を話す場をつくることを目的としています。

当日は晴天でしかも満開という絶好の花見日和のも

と、年齢、国籍、性別も様々な約100名の方に参加いただきました。花見と焼肉を楽しみながら、LOVE FMのDJ、TKさんによる進行で、BINGOゲームや舞鶴公園内で同時に開催された「おおほりまつりのステージ」にも登壇して、福岡にまつわるクイズを出題したほか、九州大学アフリカ会留学生による参加型のダンスの披露を行いました。

「I' ts エイゴ TIME~市民の英語能力発揮プロジェクト~」では本年度10月まで毎月英語で交流するイベントを開催する予定です。その開催プログラムは専用ホームページでお知らせするほか、英語を使うボランティア活動やイベントの情報なども併せてメールで案内する「WEBメンバー登録」も随時募集していますので、英語を話すこと・英語を使うことに興味がある方は是非ご登録ください。

*写真出典：I' ts エイゴ TIME
ホームページ <http://www.eigo-time.com/>
(FDC事務局 大島隆)

◆今月のおすすめ 「最新 エリアマネジメントー街を運営する民間組織と活動財源」

小林重敬編著 平成27年2月 学芸出版社発行 ¥4,320



『「エリマネ」の現在とこれからをこの一冊に 都心部に不可欠となっているエリマネ組織について、第一人者による論考と、BIDなど海外の最新情報、日本各地21組織からの報告によってまとめた決定版』表紙のカバー見返しの部分の文章です。

大都市都心部の主なエリアマネジメント組織の事例

が数多く取り上げられ、福岡からも「天神-We Love 天神協議会」と「博多駅周辺-博多まちづくり推進協議会」の事例が紹介されています。

「天神-We Love 天神協議会」は「3章 大都市既成市街地における活動事例ー事例7: 三つの都市像と10の戦略」、「4章 エリアマネジメント活動の課題 3節 アリアマネジメント活動と組織体制ー事例17: 任意団体と一般社団法人による組織・運営体制」として、「博多駅周辺-博多まちづくり推進協議会」は「2章 大都市拠点駅を中心とする活動事例ー事例6: 駅からまちへ、まちから駅へ、歩いて楽しいまちを目ざして」として取り上

げられています。

最終章 7 章 エリアマネジメントのこれからへ向け
て 3 節「官民連携と事業開発を支えるプロデューサー
型人才」は FDC 事務局長後藤太一さんの執筆です。

平成 17 年 4 月に同出版社から発行された「エリアマネ
ジメントー地区組織による計画と管理運営」と合わせて
ご利用をお勧めします。

(司書 山崎三枝)

マスコミで見る「URC」の今！ー最近 1 か月の情報を中心にー

◎新聞

(2015/4/1 西日本新聞 朝刊 7p)

こだま「東北復興遅れ 構造的問題も」

平成 25～26 年度会員研究員、21 年度市民研究員 OB 藤
原正教さんが寄稿

(2015/4/1 交通新聞 2p)

交政審でヒアリング国交省一人・モノの移動で実証実験
ー交通政策基本計画に反映

FDC が昨年 1 月、福岡都市圏で実施した実証実験が日
立の交通ビッグデータ活用のモデルとされる。

(2015/3/30 茨城新聞 朝刊 A 版 20p)

アートとまちづくり議論 取手で公開討論

市民研究員 OB 藤浩志さんがゲストとして議論

(2015/3/25 西日本新聞 夕刊 7p)

唐津街道姪浜 景観歴史発掘ガイドツアー 歴史散策
と桜の名所巡り

当研究所 OB 大塚政徳さんが事務局長を務める唐津街
道姪浜まちづくり協議会のイベント予告

(2015/3/21 朝日新聞 朝刊 29p)

建築家光吉さん 模型で功績紹介 福岡のまちづくり
貢献

当研究所が共催した展示会「明日の建築と都市展～
1960-2000 回顧と展望～」が紹介される。(※印=以下
関連記事)

(2015/3/20 中国新聞 朝刊 14p)

チャレンジ精神 旺盛に 哲学のみち研究会「中山間地
域の創生ー継続と連携」詳報

小川全夫特別研究員が基調講演を行い、研究会のコメン
テーターを務める。(※印=以下関連記事)

(2015/3/18 河北新報 朝刊)

仙台アーティスト会議/震災伝承 美術力探る

市民研究員 OB 藤浩志さんが十和田現代美術館長とし
て出席

(2015/3/17 熊本日日新聞 朝刊 4p)

人口減で「多極集中」へ 広井千葉大教授が予測 熊本
市で道州制シンポ

当研究所 OB で現在企画委員の谷口博文さんがパネリ
ストとして参加

(2015/3/17 建設通信新聞 8p)

中山間地域の創生テーマに活発議論/哲学のみち研と弘
済会が研究会 @

(2015/3/17 日本経済新聞 朝刊 39p)

挑む九大 次の一世紀へ スター教授いでよ 先端研
究の舞台整う

安浦寛人理事長が 10 年前の水素関連研究の開始時を語
る。

(2015/3/17 毎日新聞 朝刊 25p)

県政の課題 上 '15 知事選 解決策 県と町との両
輪で 人口減問題

小川全夫特別研究員が人口減少社会への有効な手立て
を語る。

(2015/3/16 建設通信新聞 12p)

3 月 29 日まで開催/故・光吉氏に焦点当て「明日の建築
と都市展」 *

(2015/3/13 日刊建設工業新聞 13p)

九州大学ら実行委/明日の建築と都市展、3 月 14～29 日
に福岡市で *

(2015/3/12 西日本新聞 夕刊 7p)

西日本新聞 TNC 文化サークル 海の考古学や万葉歌
碑めぐり

市民研究員 OG 井上光枝さんが講師を務める 5 月開講新
講座「万葉に元気をもらおう歌碑めぐり」の開催予告

(2015/3/11 中国新聞 朝刊 28p)

中山間地域の活性化議論 広島で研究会 @

(2015/2/27 四国新聞 朝刊 24p)

創作に打ち込む障害者の姿紹介 高松で事業報告展
市民研究員 OB 藤浩志さんが十和田現代美術館長とし
てトークセッションに参加

◎雑誌

(2015/3/31 フォーラム福岡 vol.60 特別号)

14~23p 座談会：ヒトが生み出す福岡の魅力
石丸修平 FDC ディレクターと西田明紀 FDC 事務スタ
ッフが参加

134~141p 「Special Report アジアとともに成長
する福岡ー「ヒト」の活力を取り込むー」

中村由美研究員が執筆

142~143p「コラム：香港人の来福客増加を担う LCC」
山田美里研究スタッフが執筆

(2015/3 東アジアへの視点 第 26 巻第 1 号)

25~36p 東九州道宮崎延伸と北九州の物流ー物流改
善と企業立地の視点からー

37~46p 都市振興と祭り：北九州市の「わっしょい百
万夏まつり」を事例に

当研究所 OB 田村一軌さんが共著

◎テレビ

(2015/3/20 KBC 14:00~14:04 福岡県広報番組)

【ふくおか暮らしに+ (プラス)】地域の課題解決に取り
組む皆さんを応援～ふくおか地域貢献活動サポート～
当研究所 OB 大塚政徳さんが事務局長を務める唐津街
道姪浜まちづくり協議会の活動「子どもまちなみ探検
隊」が紹介される。